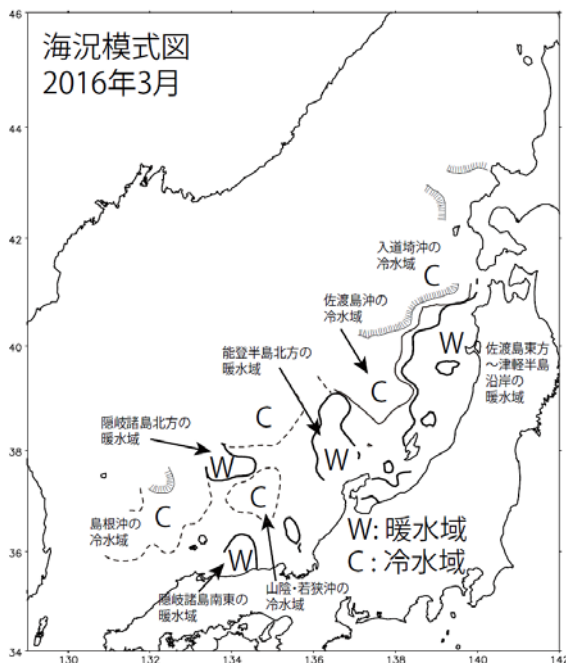


平成28年度 第1回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成28年4月中旬～6月)のポイント

- ・ 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部及び西部ともに“やや高め”で経過する。



2016年4月中旬～6月の海況

- 隠岐諸島北方の暖水域は東へ移動。
- 隠岐諸島南東の暖水域は北東へ移動し、能登半島西方に分布。
- 能登半島北方の暖水域は東へ移動し、佐渡島北西に分布。
- 佐渡島東方～津軽半島沿岸の暖水域は、勢力を縮小しつつ停滞。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。
- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、平年並み。
- 佐渡島沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さくやや離岸。
- 入道埼沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さくやや離岸。

問い合わせ先

国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所業務推進部

担当：加藤、江連

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.fra.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成28年度 第1回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2016年4月中旬～6月）

- (1) 隠岐諸島北方の暖水域は東へ移動する。隠岐諸島南東の暖水域は北東へ移動し、能登半島西方に分布する。能登半島北方の暖水域は東へ移動し、佐渡島北西に分布する。佐渡島東方～津軽半島沿岸の暖水域は、勢力を縮小しつつ停滞する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さくやや離岸で経過する。入道崎沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さくやや離岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部及び西部ともに“やや高め”で経過する。

2. 経過（2015年11月～2016年2月）

- (1) 11月に隠岐諸島北東で見られた暖水域は12月にかけて東進し、2016年2月に能登半島北西へ移動。11月に隠岐諸島東方で見られた暖水域は縮小しつつ停滞。11月に佐渡島北方で見られた暖水域は12月に消滅。11月に佐渡島東方～津軽半島沿岸に見られた暖水域は、12月にかけて東進。
- (2) 島根沖の冷水域は、11月は規模・接岸状況とも平年並み、12月はかなり大きく接岸状況は平年並み、2月はデータが少なく不明。山陰・若狭沖の冷水域は、11月は規模はやや小さくやや接岸、12月は規模は平年並みでやや接岸、2月はデータが少なく不明。佐渡島沖の冷水域は、11月は、規模は平年並みでやや離岸、12月は規模はやや小さく接岸は平年並み、2月はデータが少なく不明。入道崎沖の冷水域は、11月はやや小さくやや離岸、12月は規模・接岸状況とも平年並み、2月はデータが少なく不明。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
11月は、全体的に“平年並み”であったが、隠岐諸島北東と津軽半島西方では“やや高め”～“かなり高め”。12月は、島根沖と佐渡北西沖で“やや低め”～“かなり低め”以外は概ね“平年並み”。2月は、能登半島北西から能登半島東方にかけては“やや高め”～“かなり高め”以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、11月は日本海北部及び西部ともに“平年並み”。

3. 現況（2016年3月）

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北方、隠岐諸島南東、能登半島北方、佐渡島東方～津軽半島沿岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模・接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模はやや小さくやや接岸。佐渡沖の冷水域は、規模はやや小さく接岸状況は平年並み。入道崎沖の冷水域は、規模はかなり小さくかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、隠岐諸島北方、但馬沿岸、新潟～山形沿岸、津軽半島西方で“平年並み”以外は概ね“やや高め”～“かなり高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部は“かなり高め”、西部は“やや高め”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| “はなはだ高め(低め)” | : 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ(低さ) |
| “かなり高め(低め)” | : 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ(低さ) |
| “やや高め(低め)” | : 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ(低さ) |
| “平年並み” | : 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所